

公立能登総合病院 地域医療支援センターだより

2021年
冬号
Vol.37

2021年もありがとうございました。2022年もよろしくお願いします。

地域医療支援センター長 山端 潤也



新型コロナウイルス（コロナ）をはじめとした状況が日々刻々変化し、ある時点の情報があっという間に古くなってしまいます。この原稿を書いているのが2021年12月24日。石川県ではクラスターが発生し、世界的にはオミクロン株の広がりなど、落ち着かない日々が続いています。

コロナ等に悩まされる中ですが、2021年も活発な連携をいただきありがとうございました。今年も「顔の見える・声の聞こえる関係」構築は難しかったですが、そのような中、10月1日には「七尾市入退院支援ルール



ブック研修会」がWEB開催され、当院からも参加（左写真）し、多くのご施設とZoom上で顔合わせができました。開催していただいた七尾市地域包括支援センター様に心よりお礼申し上げます。

2022年も引き続き、今まで以上に活発な連携を行っていきたいと思っております。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

良いお年をお迎えください。



臓器移植医療における当院での取り組みについて

当院は2000年より脳死下臓器提供施設となり、以下の取り組みを行っています。

1. 移植情報担当者及び院内コーディネーターの配置（石川県知事の委嘱）
2. 臓器移植連絡委員会の開催、取り組みの検討（脳死下臓器提供シミュレーションや研修会、マニュアル改訂等）



毎年10月の臓器移植普及月間には、正面玄関にてポスターやパンフレットを用いた展示ブースを設けたり、グリーンライトアップを開催し啓発活動にも努めています。

このような取り組みの中、入院前の患者様の臓器提供の意思表示を受け、本人の意思を尊重したいというご家族の強い思いから、当院でも脳死下臓器提供の貴重な経験をさせていただいております。

患者様、ご家族の意思により、脳死下臓器提供を行った患者様の各臓器は、全国各地の移植を待っていた選ばれた患者様に無事受け継がれました。

提供された臓器は新たな生命力となり、移植を受けた患者様と共にそれぞれの人生を歩まれています。



臓器提供では「提供する」「提供しない」どちらの意思も尊重されます。

万が一、脳死とされ得る状態となった時、患者様とご家族の「提供する・しない」どちらの意思も最期まで尊重できるよう、引き続き取り組んでいきます。

～形成外科からのご案内～

眼瞼下垂症の治療について

形成外科医長

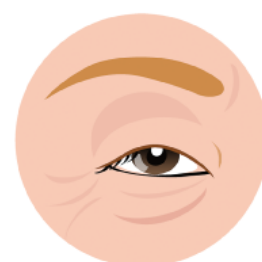
島田 良浩

平素より地域の先生方におかれましては、多くの患者さんをご紹介いただき誠にありがとうございます。2021年4月より形成外科に赴任致しました島田良浩と申します。

当院では眼瞼下垂症については形成外科で治療を行なっておりますのでご紹介させていただきます。



高齢者の眼瞼下垂症は加齢に伴いまぶたを上げる筋肉(眼瞼挙筋)が緩んだり、まぶたの皮膚が垂れ下がり視野が狭くなる病気です。まぶたが重く、これを前頭筋で代償するためおでこに皺ができたり、頭痛や肩こりの原因にもなります。



眼瞼下垂症の治療は、主に以下の2つを患者さんの状態や希望に応じて適応を検討します。

①眼瞼挙筋前転法

二重のラインに沿って皮膚を切開して、緩んだ眼瞼挙筋を瞼板に再固定します。傷跡は二重のラインに隠れるため目立ちません。皮膚弛緩もある場合は皮膚切除を併用することも可能ですが、切除量が多い場合は眉毛近くの厚い皮膚が被さり腫れぼったい目元になるため、注意が必要です。

②眉毛下切開法

眉毛の下ラインに沿ってたるんだ皮膚を切り取ります。眉下のラインに沿って傷ができますが、丁寧に縫合するため傷跡はほとんど目立たなくなります。皮膚のたるみが多い場合や手術によって目元の印象をあまり変えたくない方には良い適応となります。

いずれの治療も局所麻酔で手術時間は1-2時間程度です。原則的には1泊2日の入院手術で行っています。細かい解剖の確認と血管の止血が必要になるため、全例拡大鏡下に手術を行っています。

眼瞼下垂症以外にも眼瞼・睫毛内反症などの眼瞼手術も当科で行っておりますので、症例がございましたら当院形成外科までご紹介いただけましたら幸いです。今後とも地域の皆様のお役に立てるように励んでいきますので何卒よろしくお願い致します。

脳神経外科輪番制の当番日

1月1.2.8.9.10.16.22.23.30

2月5.6.12.13.19.23.26.27

3月6.12.13.20.21.26

小児科休日当番日のご案内

1月 2日、16日

2月13日、27日

3月21日